様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２２ 日現在

機関番号：２８００３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５４６３３４５

研究課題名（和文）ICTを用いた離島・へき地看護職者への支援とネットワーク構築

研究課題名（英文）Supporting Nurses in Remote Islands and rural area through ICT.

研究代表者
清水　かおり（比嘉かおり）（SHIMIZU, Kaori）

名桜大学・健康科学部・上級准教授

研究者番号：１０２８４６６３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：沖縄本島北部の離島・へき地で勤務する看護職者への継続教育機会の提供、ICTを用いたネットワーク作りを目的として「美ら島ナース支援研究会」を開催した。3年間で18回開催し合計475人が参加した。提供したテーマは、摂食・嚥下障害ケア、褥瘡・創傷予防ケア、感染看護、ICLSコース、クリティカルケアなどである。参加者から看護実践の振返り、継続教育、看護職者間・他職種との情報交換や交流になったという意見があり、概ね研究会の目的は達成されたと考える。ICTを用いた情報発信として大学のwebサイト、Facebookページで開催案内・終了報告を行った。また、電子メールやSNSを用い、遠隔で看護研究を支援した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to provide of continuing education and to make the network using Information Communication Technology (ICT) for rural nurse in Okinawa Island north area. During the three years, We held a "Okinawa Island Nurse Support Workshop" 18 times, and 475 nurses participated in the WS. We have provided, dysphagia care, wound and decubitus care, infection control, disaster medicine and nursing, ICLS course, and critical care. Participants responded to reflection of nursing practice, continuing education, and information exchange and interaction with nurses and other occupations. We suggest, the aim of the workshop was achieved. We through ICT (web site of the university and the Facebook page of the WS) provided the announcement-end information of WS. In addition we had supported to nursing research in remote, using e-mail and SNS.

研究分野：看護教育学

キーワード：看護学　ルーラルナーシング　継続教育　ICT　遠隔看護

１．研究開始当初の背景

(1)　沖縄県における離島医療の現状

沖縄県は 39 の有人離島を有し、群島主島型の宮古島、石垣島、久米島の 3 カ所には病院が設置されており、残り 36 島のうち 16 島(17 カ所)には県立診療所、3 島には町村立診療所の計 20 診療所が設置されている。これらの離島診療所では、医師一人、看護師一人で孤軍奮闘しており、また離島に勤務する保健師も 0-1 人で住民の健康支援を担うという状況が多いため、医療職者への活動の支援、精神的支援は重要と考えられる。

(2)　国内外における離島・へき地における看護実践・継続教育の現状

Desley は、ルーラル/リモートエリアナーシングに関する 7 つ勧告の中で、雇用者は看護師確保・定着のために、定期的な代替看護師派遣などの費用負担、適正水準の人的、財政および物的資源が備わった職場環境の提供、ICT へのアクセスおよび使用に必要な教育提供の必要性を述べている。八田らは、「ルーラルナーシングとはへき地・離島における看護職の活動」としている。その定義から、沖縄の離島診療所・保健医療施設や本島北部の看護職の看護実践はルーラルナーシングと共通する部分も多いことが推察される。ルーラル地域で働く看護職は看護に必要な知識・技術を向上させる研修の機会が得られにくい、交代要員の確保が困難なことにより研修参加が困難である、情報・知識が必要となったとき自己学習方法や情報・知識の入手方法の選択肢が限られている、インターネットからの情報を得ることや看護職・関係職種との交流会が少ないことなどが明らかになっている。諸外国のルーラルナーシングの現状調査によると、ハワイ大学では、教員を地域に送り、遠隔教育システムを利用しながら、ルーラルで働く看護職に継続教育を行っており、技術と人間的接触の共同がなされている。

(3)　これまでの研究成果を踏まえ、着想にいたった経緯や研究成果の発展

沖縄県内の離島診療所看護師 3 名を対象とし、ビデオカンファレンス実施した。研究結果を基に検討した、離島診療所看護師への具体的な支援策を図 1 に示す。離島診療所看護師は、島外の看護師とのコミュニケーション、遠隔/島に居ながらの知識・技術のアップでート、インターネットリテラシーを必要としており、それらは ICT 環境整備をした上で、ビデオカンファレンスや、公開講座の発信等を通して遠隔で支援することが可能と考える。さらに、離島診療所看護師は、学会・研修会への参加、休暇のために島外に出るための代替看護師の確保を必要としている。

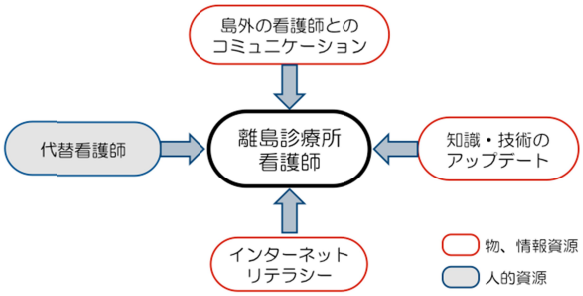

図1. 具体的な支援策

(4)　沖縄本島の遠隔離島・へき地の現状

沖縄本島の離島・へき地で勤務する看護職（以下ルーラルナース）はその地理的特徴から継続教育の機会が得られにくく、知識・情報入手手段も限られている。

また、ルーラルナースは、関連する他の専門職に関わる役割も担うことが多く、その役割を果たすためには広範囲の知識が要求される。

２．研究の目的

本研究では、沖縄県北部で活動するルーラルナースが学習や相談を受けられるようなサポート、知識・技術のブラッシュアップをはじめとする支援体制づくり、および ICT を用いて離島・へき地で勤務する看護職者間のネットワーク構築することを目的としている。

３．研究の方法

(1)　「美ら島ナース支援研究会」の開催

2013 年度に「美ら島ナース支援研究会」を立ち上げ、ルーラルナースへ継続学習の機会提供を開始した。2014 年度には新沖縄 ICLS コースと共催して、救急医学会認定 ICLS コースを開催した。2015 年度には救急医学会認定 ICLS コース開催だけでなく、中北部クリティカルケアネットワーク・認定看護師ネットワーク、呼吸療法士研究会との共催で臨床セミナーを開催した。研究会の開催は本学の web サイトにも掲載した。開催および終了報告は、Facebook に研究会のページを作成し公開した。

(2)　看護研究指導

個別に沖縄本島北部地域の病院の看護師を対象に看護研究指導を行った。

４．研究成果

(1)　「美ら島ナース支援研究会」

この 3 年間で 18 回の「美ら島ナース支援研究会」を開催した。参加者は平成 2013 年度 110 名、2014 年度 204 人、2015 年度 161 人である。提供したテーマは、摂食・嚥下障害ケア、褥瘡・創傷予防ケア、排泄障害ケア、災害医療・看護、がん看護実践、補完代替療法、感染看護、ICLS コース（共催）クリティカルケアの臨床セミナー（共

催）である。本研究会への参加者の所属施設は病院、介護施設、デイサービス、教育機関が多く、職種は看護師、保健師、ケアマネージャー、介護職者、看護教員、看護学生であり、テーマにより割合が異なった。

「美ら島ナース支援研究会」を定期開催することにより、沖縄本島北部のルーラルナースへの支援活動ができていると評価できる。研究会毎に内容を評価し、取り上げて欲しい課題・テーマ、要望を把握した上で次年度の研究会の計画を立てていった。参加者から自身の看護実践を振り返る機会になったという意見、継続教育になったという意見、看護職者間・他職種との情報交換や交流ができたという意見があり、研究会の目的である知識・技術のブラッシュアップ、学習や相談を受けられる体制づくり、離島・へき地にいながら学習できる環境作り、看護職者間のネットワークづくりになっており、概ね研究会の目的は達成されたと考える。ICT による研究会の配信にまでは至っていないが、大学の web サイト、Facebook での研究会開催案内、終了報告を通して、ICT による支援活動になっていると考える。

各年度の「美ら島ナース支援研究会」の活動内容は以下の通りである。

① 2013 年の活動内容詳細

回	開催日	テーマ	情報提供者	参加者数
第１回	2013.9.27	摂食・嚥下障害ケア	和光園・加藤節子（摂食･嚥下障害ケア認定看護師） 名桜大学・金城利雄	29
第２回	2013.10.25	災害時の院内での初動	名桜大学・清水かおり	14
第３回	2013.11.15	乳がん体験者に対する効果的な運動	名桜大学・玉井なおみ	5
第４回	2013.12.13	一般病棟におけるがん看護実践	那覇市立病院・吉澤龍太（がん看護専門看護師）	9
第５回	2014.1.24	臨床現場で手軽にできる補完代替療法～手軽に行えるアロママッサージ～	名桜大学・玉井なおみ/清水かおり	22
第６回	2014.2.28	外来患者の創傷ケア・褥瘡予防	沖縄県立北部病院・久貝香皮膚・排泄ケア認定看護師	22
第７回	2014.3.14	緩和ケア病棟におけるがん看護実践	アドベンチストメディカルセンター・濱田香純（がん看護専門看護師）	9

参加者アンケートの結果

- 全ての研究会において、ほぼ全員が総合評価は「良かった」と回答した。
- 日勤の勤務終了後に合わせ 18 時 30 分～20 時に開催し、研究会の日程・時間帯・形式については、ほぼ全員が「適切・まあ適切」であったが、もう少し遅い時間帯（19:30～）を希望する意見もあった。
- 自由記載では「地元のスタッフ対象に気軽に参加できる勉強会でとても良かった」、「今回のようなテーマの研修はあまり開催されないのでもう少し詳細な内容を聞きたい」、「災害看護では、他スタッフとのつながりもとても大切なので、顔合わせ等も含め良い機会になったと思う」、「今日の講義を職場でも活かしていきたい」、「日頃行っているテープの貼り方、はがし方を気を付けて行っていきたいと思います」など肯定的な意見が多く、今後開講して欲しいテーマとして実践編のニーズが高かった。

活動内容評価

- がん看護に関するテーマとして、乳がん患者への運動療法、がん看護専門看護師による看護実践（一般病棟、緩和病棟）を開催したが、いずれも参加者が少なかった。臨床現場で手軽にできる補完代替療法（5 分間アロマハンドマッサージ）は比較的参加者が多かったが、その大半が学内者であった。
- 北部地域にも、がんの患者・家族が生活しており、がん看護も実践されていると考えるが、４回のがん看護に関する研究会への参加度を評価すると、現場のニーズ、優先度が低いことが考えられる。
- 摂食・嚥下障害者ケア、褥瘡・創傷予防ケアへの学外者参加が多いことを考慮すると、施設で療養する高齢者への看護実践についてのニーズ、優先度が高い。
- 次年度の研究会は、施設で療養する高齢者への看護実践に関するテーマを中心に展開

② 2014 年の活動内容詳細

回	開催日	テーマ	情報提供者	参加者数
第１回	2014.4.18	摂食・嚥下障害ケア	和光園・加藤節子 （摂食･嚥下障害ケア認定看護師） 名桜大学・金城利雄	11
第２回	2014.7.18	排泄障害ケア	名桜大学・金城利雄	27
第３回	2014.7.25	褥瘡・創傷予防ケア	沖縄県立北部病院・久貝香 （皮膚・排泄ケア認定看護師）	28
第４回	2014.9.19	災害医療・看護	名桜大学・清水かおり/ 沖縄県立中部病院・高良剛口ペルト （災害基幹病院医師・DMAT隊員） 沖縄県立北部病院・當山護剛 （DMAT隊員）	30
第５回	2014.11.21	感染看護管理	名桜大学・西田涼子/ 沖縄県立北部病院・島袋あや子 （感染管理認定看護師）	22
第６回	2014.12.07	救急医療・看護 （ICLSコース）	沖縄ERサポート・林峰栄 （ICLSコースディレクター）	63
第7回	2015.1.23	摂食・嚥下障害ケア	和光園・加藤節子 （摂食･嚥下障害ケア認定看護師） 名桜大学・金城利雄	23

参加者アンケートの結果

- 総合評価で 93.9%が良かったと回答していた。
- 「普段行っている看護ケアの再確認することができた」など自身の看護実践を振り返るきっかけとなっていた。
- 「看護学校を卒業したらなかなか勉強する機会がないので良かった」卒後教育・継続教育の機会となっていた。
- 医師 看護師の視点だけでなく市町村の動きもわかって良かった」「最後のディスカッションを皆で共有できて良かった」など情報交換や交流に関する意見があった。

2014 年度活動内容評価

- 新おきなわ ICLS コースとの共催は 23 名が受講し、継続開催へのニーズが高く次年度も開催していきたい。
- 中北部クリティカルケアネットワークの教育セミナー、ICLS コース、認定看護師ネットワーク、呼吸療法士研究会などとの共催など北部地区での学びの機会を増やし、より実践的で、ブラッシュアップできる継続教育の充実を図っていく。今後開催して欲しいテーマから、次年度は「各機関の動き・対策」「机上訓練の実際や派遣経験を含めた交流会・勉強会」な

ど災害時の看護職、他職種の協働連携と「認定看護師による研究会」「資格や専門性を持った内容」など専門性を高める内容について計画する。

③ 2015 年の活動内容詳細

回	開催日	テーマ	情報提供者	参加者数
第１回	2015.9.08	集団災害発生時の対応	国頭地区行政事務組合消防本部・當山光哉（消防士・救命救急士）	10
第２回	2015.11.28	第11回新おきなわICLS指導者養成WS	沖縄ERサポート・林峰栄（ICLS-WSディレクター）	16
第３回	2015.11.29	第45回新おきなわICLSコース（やんばるコース）	沖縄県立中部病院・高良剛ロベルト（ICLSコースディレクター）	70
第４回	2016.1.30	第１回臨床セミナー@名護	中頭病院・芹田晃道（急性期ナースプラクティショナー/臨床工学技士）、井村久美子（集中ケア認定看護師）、西野計史（慢性心不全看護認定看護師）、ちばなクリニック・東雅之（慢性呼吸不全看護認定看護師）、名嘉村クリニック在宅ケアセンター・町田尊（看護師）	65

(2)　看護研究支援

2013 年度は１施設の文献検索を支援した。2014 年度は 2 施設 2 部署への看護研究支援を行った。研究テーマの決定、研究計画書の作成、調査用紙の作成、データ分析、考察、論文作成、プレゼンテーションと一連のプロセスに関わった。2015 年度は 1 施設 1 部署の看護研究全てのプロセスに関わった。看護師個人の相談は 3 件あった。主に、研究計画書を作成する段階での支援であった。

看護研究支援は、研究者の研究室、それぞれの施設において、直接行うだけでなく、電子メール、SNS（LINE、Messenger、メッセージなど）を活用し遠隔で実施した。LINE でのチャットは、場所を移動せずに、今抱いている疑問に即時対応できメリットがあった。研究者と看護師の勤務の都合を合わせるのが困難であり、ICT を用いた遠隔での支援は有効であると考える。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

- 清水かおり、神里みどり：離島診療所看護師の学習環境の現状と課題、へき地・離島救急医療学会誌（投稿中）

〔学会発表〕（計２件）

- 清水かおり、神里みどり：離島診療所看護師の学習環境の現状と課題、第 19 回へき地・離島救急医療学会学術集会、2015.10（沖縄）
- 下地紀靖、清水かおり、玉井なおみ、西田涼子、野崎希元、金城利雄：離島・へき地で勤務する看護職者への継続教育支援、第 19 回へき地・離島救急医療学会学術集会、2015.10（沖縄）

〔図書〕（計１件）

- 名桜大学編：名桜叢書第１集 ものごとを多面的にみる　第 2 章　沖縄からみる「みんなでつなぐ命のリレー　−島から島へつなげるゆいまーるプロジェクト−」p212-221、公立大学法人名桜大学、2014.10

〔その他〕

ホームページ等

美ら島ナース支援研究会

facebook.com/meio.churashimanurse

６．研究組織

(1)研究代表者

清水　かおり（Shimizu Kaori）

公立大学法人名桜大学・人間健康学部・上級准教授

研究者番号：10284663

(2)研究分担者

比嘉　憲枝（Higa Norie）

公立大学法人名桜大学・人間健康学部・上級准教授

研究者番号：40326509

神里　みどり（Kamizato Midori）

沖縄県立看護大学・大学院・教授

研究者番号：1028466

下地　紀靖（Shimoji Noriyasu）

公立大学法人名桜大学・人間健康学部・准教授

研究者番号：20634819

玉井　なおみ（Tamai Naomi）

公立大学法人名桜大学・人間健康学部・准教授

研究者番号：80326511

(3)研究協力者

- 金城　利雄（Kinjo Toshio）
  公立大学法人名桜大学・人間健康学部・教授
- 西田涼子（Nishida Ryoko）
  公立大学法人名桜大学・人間健康学部・助教
- 野崎　希元（Nozaki Marechika）
  公立大学法人名桜大学・人間健康学部・助手
- 高良　剛ロベルト（Takara Tsuyoshi Robert）
  沖縄県立中部病院・救急医療部長